



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんがのほう主人!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつゆゑ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- はははのれび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかると\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかると\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第1回 算数と仏教

B! 3 | チェック | いいね! 1 | Tweet

今月からこのエッセイを連載させていただくことになりました、作家の山田真美と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、話せば長いことながら、不思議なご縁で19歳のときからインドと深いおつきあいをしております。これまでにインドを訪れた回数は数知れず。作家としてはこれまでに5冊ほどインド関係の本を出版いたしました。

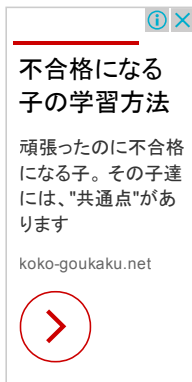
さらに一昨年からは、思うところあって真言密教の勉強のため高野山大学大学院に籍を置く現役の学生でもありますから、ふりかえって見れば、これまでの私の人生は割と早くから“仏教的な色彩”に彩られてきたと言えるかも知れません。

今回、このエッセイを書くに当たってふと思ったのは、自分が「仏教」というものをハッキリと自覚した最初はいつだっただろうか、ということです。そして思い当たったのは、ある日の父との会話でした。

あれは小学校の3～4年生のころだったでしょうか。いつものように父と世間話をしていて、何かの拍子に数字の話になりました。父は国家公務員でしたが、囲碁がめっぽう強く、関西棋院の長野支部長も務めており、とても頭の切れる人でした。私はそんな父と少し難しい話をするのが大好きな、ちょっと変わった子どもだったのですね。

このときの父の話によれば、数字の単位には「一」「十」「百」「千」

- [第16回 不老不死のお酒](#)
- [第15回 アンチエイジング](#)
- [第14回 女子力不足](#)
- [第13回 仏のレッスン](#)
- [第12回 母と子をつなぐ道](#)
- [第11回 座敷わらし](#)
- [第10回 夢のお告げ](#)
- [第9回 犬に引かれて](#)
- [第8回 生まれ変わり](#)
- [第7回 お葬式の意味](#)
- [第6回 不思議なご縁](#)
- [第5回 生きるための勇氣](#)
- [第4回 祖母の形見](#)
- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



「万」の上に「億」、その上に「兆」、さらにその上には「京(けい)」があって、その上にもたくさんの単位があるということでした。

それまでせいぜい「兆」の単位ぐらいしか知らなかった私にとって、父の言葉は新鮮でした。

「兆の上が京なら、京の上には何があるの？ 数字の単位をもっと教えて？」そう尋ねた私は、きっと少女漫画の主人公のように目をきらきら輝かせていたことでしょう。

翌日、父はさっそく算数の本を買ってきてくれました。それはフルカラー印刷のハードカバー本で、当時(昭和45年ごろ)の長野のような地方都市では、なかなか手に入らないような豪華本だったように記憶しています。

余談ながら、私の生家にはいくつかユニークな家訓がありまして、そのひとつが「たとえ住む場所や着る物にけるお金を節約しても、ゆめゆめ書籍代をケチってはならない」というものでした。公務員だった父の収入は決して多くありませんでしたが、今にして思えば、我が家の“書籍エンゲル係数”は、かなり高かったのではないかと思います。

さて、父が買って来てくれた本によれば、数字の単位は「京(けい)」の上が「垓(がい)」で、その上は順番に「秭(じょ)」「穰(じょう)」「溝(こう)」「澗(かん)」「正(せい)」「載(さい)」「極(ごく)」と続き、そのまた上には「恒河沙(ごうがしゃ)」「阿僧祇(あそうぎ)」「那由多(なゆた)」「不可思議(ふかしぎ)」「無量大数(むりょうたいすう)」があるということでした。

私は、すぐにその本の虜(とりこ)になってしまいました。特に、「恒河沙」から「無量大数」までの5つの言葉は、えも言われぬ神秘性をおびていて、じっと字面を見ていると、まるでお坊さんが唱えるお経の一節か何かのように思えたほどです。

本の解説によれば、これらの数字の単位は、インドの古い言葉であるサンスクリット語だということでした。私はこのとき初めてサンスクリットという言葉の存在を知り、「恒河沙」が10の52乗で、もともとは「ガンジス河の無数の砂」という意味であることも学んだのでした。ちなみに「ゴーガ」とは、ガンジス河をあらわした「ガンガー」がなまった音です。

同様に「阿僧祇」は10の56乗で、サンスクリットで「数えることができない」という意味のアーサムキャという言葉の音訳。

「那由多」は10の60乗で、同じくサンスクリットで「非常に大きな数量」をあらわすナユタの音訳。最近では『那由多の刻(とき)』という蕎麦焼酎が売られていますから、酒屋さんでこの言葉を見かけた方も多いでしょうが、那由多の刻を数字であらわすと、「1,000,000,000,000

このように、私はたった1冊の算数の本から仏教の面白さを知りました。仏教への入り口は、いたるところに開いているということでしょう。仏縁とは、ほんとうに不可思議なものですね。

◀ [仏教一年生 山田真美・著](#) [第2回 お釈迦さまのお顔](#) ▶

山田 真美（やまだ・まみ） プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士（高野山大学）。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。

1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学（豪）でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ：<http://www.yamadamami.com/>



マイクロソフトPower BI

あなたのデータを収集&管理。どなたでも、どのデバイスでもアクセス可
powerbi.microsoft.comへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



© 2002-2016

真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)

[真言宗について](#)

[金剛院イベント情報](#)

[メールを送る](#)

[しいなまち みとら](#)

[唱えてみよう!](#)

[仏教いちねんせい](#)

[金剛院NewS](#)

[おすすめリンク集](#)

[こんごういんキッズ](#)

[たいけんしてみよう!](#)

[まんが 小坊主くん!](#)

[金剛院について](#)

[バックナンバー](#)

[メディアで紹介](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ぶつ仏クイズ](#)

[金剛院の四季](#)

[サイトマップ](#)

[ばばばのレシピ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[地図・アクセス](#)

不合格になる子の学習方法

頑張ったのに不合格になる子。その子達には、「共通点」があります koko-goukaku.netへ進む

